資料 4

T1: 大規模災害場面における関係機関の連携

巨大災害における対応の標準化

京都大学防災研究所 林 春男

なぜ標準化が必要なのか

- 超広域・巨大災害の発生
- ・ 被害予防の限界
- 被害の発生を前提として、迅速で・効果的な立 ち直りを可能にすることが必要
- 大規模災害は「誰にとっても初めての体験」
- 人々が力を合わせる必要性
- 相互応援の必要性

相互応援のむずかしさ

- 大規模災害はほとんどの人が経験したことがない
 - → その場で「一から考え始める」
- その結果
 - 1. 「やるべきことを決めるのに時間がかかる」
 - 2. 「やるべきと決めたことができない」
 - 3. 「やるべきだと決めたことが人によって異なる」
 - → 質の低い災害対応
- これを改善するためには、災害対応の標準化が大 切

ISO22320:2011(JIS Q 22320:2013)

社会セキュリティ 一危機管理一 危機対応に関する要求事項

Emergency Management - Requirements for incident response

1. 組織内指揮統制:

- 単一組織内の指揮調整、組織構造及び手順, 意思決定支援, トレーサビリティ. 情報管理. 及び相互運用性

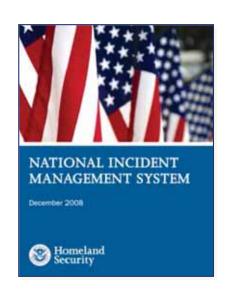
2. 活動情報処理

- タイムリーに、的を得た、正確な情報を生み出す
- そのための作業プロセス、データ収集及び管理のありかた

3. 組織間協力連携

- 部門間及び関係組織間の協力連携だけでなく指揮調整のプロセス
- 国際レベル、国家レベル、地域レベル又は地方レベルで危機対応に関 与するあらゆる組織(民間、公的、政府系又は非営利)に適用

NIMS の構成要素とICSの位置づけ



Preparedness

「災害対応力の平時からの向上」

Communications and Information Management

「情報処理脳旅行の向上」

Resource Management

「資源管理能力の向上」

Command and Management

「指揮・組織運営能力の向上」

Ongoing Management and Maintenance

「継続的な向上」

Incident Command System

(ICS)

Multiagency Coordination Systems

(相互応援)

Public Information

(広報)





危機対応に必要な5つの機能

Incident Command System (ICS)

スタッフの補佐を受けて決心し、 ■ 実行部隊に活動方針を示す

指揮調整

COMMAND

事案処理

OPERATIONS

指揮者の示す 活動方針に もとづいて 対応を実行する

情報作戰

PLANNING

資源管理

LOGISTICS

財務管理

FINANCE

指揮者を補佐して スタッフ業務を行う

ICS の適用場面

Types of events(種類)		Nature of events(性質)		
		Planned 計画	Forecasted 予知	No-notice 突発
Events イベント		THE REPORT OF THE PARTY OF THE		
Incidents インシデ ント	Natural hazards 自然災害			
	Techno- logical hazards 産業災害			
	Human- caused hazards			

複数の組織が現場で協働する場合 Unified Command (統一指揮)

規模が大きく、複雑な事案では、さまざまな組織から派遣される部隊が現場で活動する。そうした場合に関係機関がチームとして、事案に対して統一的に対応する仕組みをNIMS(National Incident Management System)は用意している

統一指揮だからといって、各組織のあり方は変わらない



Unified Command(統一指揮)

- 共通した目標設定と戦略を構築 する
 - a common set of incident objectives and strategies.
- 各組織の長が話し合い、共同で 意思決定する(談合)
 - joint decisions
- 指揮命令系統は維持する (指示する人は一人)
 - unity of command

我が国でも福知山線脱線事故の 際などで実現している。

